



たくさんお話聞きたいな

伝説のお菊塚

怪談・番町皿屋敷を追え

お血がいちま〜い、にま〜い…。むか〜しむかしの怖〜いお話・番町皿屋敷。わたしは主人公お菊さんのことを知りたくて、博物館学芸員の早田さんにお話を聞きました。

豆記者



まきの 牧野 友香



博物館にあるお菊さんの絵

江戸時代のこと。平塚のお菊さんは、江戸の番町にある青山主膳という人のお屋敷に働きに行きました。お菊さんは真壁源右衛門という役人の娘で、すごい美人だったそうです。そんなお菊さんを青山家の家来の一人が好きになってしまいました。でも、お菊さんは彼女にはなってくれません。言うことを聞いてくれないお菊さんを憎んだその家来は、青山主膳が大切にしていたお皿を一枚隠してしまいました。そして、青山主膳に「お菊が皿をなくした」と嘘をついたのです。怒った青山主膳は、お菊さんを殺してしまいました。



キャー。怖いよー

でもどうして、似たような話が平塚に？

無実の罪で死んだお菊さんは、亡霊になり毎晩青山家の人たちを苦しめ続けました。
「いちま〜い、にま〜い、さんま〜い、よんま〜い、ごま〜い、ろくま〜い、ななま〜い、はちま〜い、きゅうま〜い、……一枚足りな〜い」
これが平塚に伝わるお菊さんの悲しいお話です。こういった話は、実は日本中に何種類もあるそうです。言い伝えなので、主人公の名前が違ったり、お皿はお菊さんが割ってしまったり、お皿はお菊さんが割ってしまった。

江戸時代、この辺りの女の人は、江戸の武家屋敷や商人の家に働きに行くことが多かったそうです。「相模の出女」とか「相模女」と呼ばれました。そういう歴史があつて、生まれた話なのかもしれません。
この話が本当かどうかは分かりません。あくまで言い伝えですから。でも、平塚の紅谷町公園の中には、お菊さんを供養するためにお菊塚が建てられています。
今日も、お菊塚にはお菊さんのようにきれいな花が一輪、静かに供えられていました。



いろいろな言い伝えにビックリ